

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	2	学年	1 年
教科書(出版社)	新編現代の国語(東京書籍)						
副教材(出版社)	プレミアムカラー国語便覧(数研出版)						

1. 科目の目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める—
知識や情報の正確さを判断したり、知識や情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、他者の課題解決に役立てることができる。	4	学習活動を通して語彙を豊かにし、目的や場に応じて、話し方、聞き方、書き方を工夫し、他者理解・相互理解を深めながら、伝え合う力を高めている。
知識や情報の正確さを判断したり、知識や情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、自身の課題解決に役立てることができる。	3	学習活動を通して語彙を増やし、目的や場に応じて、話し方、聞き方、書き方を工夫し、伝え合う力を高めている。
知識や情報の正確さを判断し、学び得た知識や情報をまとめることができる。	2	目的や場に応じ、話し方、聞き方、書き方を工夫し、伝え合う力を高めている。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	目的や場に応じ、話し方、聞き方、書き方を工夫している。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	自己を見つめる「ルリボシカミキリの青」福岡伸一 「 」、「 」、 ・気になるニュースについて話そう 他者に出会う「未来をつくる想像力」石田英敬 「 」、「 」、 「水の東西」山崎正和 ・常用漢字の学習(校内検定の復習)	
2学期	視野を広げる「無彩の色」港千尋 社会と関わる「鍋洗いの日々」村上信夫 「 」、「 」、 「森で染める人」鈴木菜々子 言葉と生活 ・新聞記事を読んで意見文を書こう 「 」、「 」、 ・相手に応じた言葉の選び方、手紙の書き方 ・常用漢字の学習(校内検定の復習)	
3学期	世界とつながる「りんごのほっぺ」渡辺美佐子 「 」、「 」、 ・読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう、自分の選んだ本の紹介文を書こう 未来に目を向ける「真の自立とは」鷺田清一	

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・定期考査 ・課題、レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況等の観察 など	・学習状況等の観察 ・課題、レポート等の記述 ・振り返り、自己評価 など
学習方法	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を養うことを目的とします。「働くこと」「自然科学」など、多様なテーマの教材を取り上げます。ただ授業を聞くだけでなく、自分なりの意見や考えを持って主体的に学習に取り組みましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	国語	科目	言語文化	単位数	2	学年	1 年
教科書(出版社)	高等学校 標準言語文化(第一学習社)						
副教材(出版社)	プレミアムカラー国語便覧(数研出版)新総合演習 I (尚文出版)						

1. 科目の目標

- (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める—
知識や情報の正確さを判断したり、知識や情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、他者の課題解決に役立てることができる。	4	作品、文章の種類や背景等を踏まえ、読解のスキルを生かして内容を的確に読み取って豊かに解釈し、自分のものの見方、感じ方や考え方を深めることができる。
知識や情報の正確さを判断したり、知識や情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、自身の課題解決に役立てることができる。	3	作品、文章の種類や背景等を踏まえ、読解のスキルを生かして内容を読み取って、自分のものの見方、感じ方や考え方を深めふことができる。
知識や情報の正確さを判断し、学び得た知識や情報をまとめることができる。	2	作品、文章の種類や背景等を踏まえ、読解のスキルを生かして内容を読み取ることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	作品、文章の種類や背景について理解し、内容を読み取ることができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	小説を読む「とんかつ」三浦哲郎 古文入門「古文を読むために」 " 『宇治拾遺物語』『児のそら寝』 漢文入門「訓読に親しむ」「漢文を読むために」 " 『孟子』『五十歩百歩』 短歌と俳句「清水へ」「蹴鞠唄」	
2学期	小説を読む「羅生門」芥川龍之介 随筆を読む『枕草子』『うつくしきもの』 史伝を読む『十八史略』『鶏口牛後』 小説を読む「夢十夜」夏目漱石 言語活動「俳句を作る」	
3学期	物語を読む『伊勢物語』『筒井筒』 漢詩の鑑賞「唐詩の世界」李白「春望」杜甫 伝統と文化「祭りの笛」三浦哲郎 言語活動「『祭り』をテーマに随筆を書く」 中国の思想「論語」	

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・小テスト ・口頭試問 など	・定期考査 ・課題、レポートの記述 ・探究活動の内容 ・学習状況等の観察 など	・学習状況等の観察 ・課題、レポート等の記述 ・振り返り、自己評価 など
学習方法	上代から近現代までの我が国の言語文化について学びます。言葉や文化が千年以上途切れずに現代に生きる私たちの間に届いているのを知ること、当時の人々が見たり考えたり感じたりしたことを当時の言葉を通じて知り、その共通点に気づくことを意識しながら学習します。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2	学年	1 年
教科書(出版社)	高校生の地理総合(帝国書院) 標準高等地図(帝国書院)						
副教材(出版社)	高校生の地理総合ノート(帝国書院)						

1. 科目の目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ課題を追及したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)地理に関わる諸事象に関して世界の生活文化の多様性や防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
(2)地理に関わる事象の意味や意義特色や相互の関連を位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係空間的相互依存作用地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
(3)地理に関わる諸事象についてよりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うとともに多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚が国の国土に対する愛情世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める—
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	課題を関連させながら自ら課題を発見し多角的な視点でその解決に取り組むことを通じて、社会貢献に向けた活動ができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	課題を自ら発見し、多角的な視点でその解決に取り組むことができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	様々な課題を認識し、その解決に向けて計画を立てることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	様々な課題を認識することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 2部 国際理解と国際協力	1部1章 地図や地理情報システムと現代世界 2章 結びつきを深める現代世界 2部1章 生活文化の多様性と国際理解 序説～5節
2学期	2部 国際理解と国際協力 3部 持続可能な地域づくりと私たち	1章 生活文化の多様性と国際理解 5節 事例1～事例10 2章 地球的課題と国際協力 3部1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境
3学期	3部 持続可能な地域づくりと私たち	1章 自然環境と防災 2節～4節 2章 生活圏の調査と地域の展望

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評価に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・復習プリント など	・単元テスト ・定期考査 ・課題、レポートの記述 ・学習状況等の観察 など	・課題、レポート等の記述 ・学習状況等の観察 ・振り返り、自己評価 など
学習方法	地理総合は、世界各地の生活文化の多様性について、地形や気候などの自然環境や、産業・民族・言語・宗教などの社会環境との関わりに着目しながら考察していく科目です。また、地理的な見方・考え方や地図に関する技能を身につけ、私たちの暮らしと、地域の自然環境や社会、文化との関わりを考えることも地理総合の学習のねらいです。地理情報システム(GIS)や地形図、ハザードマップなど、私たちの生活のなかで関わりが深いものについて触れる機会も多々あり、これらがどのような役割を果たしているのかも学習していきましょう。		
ICT活用	Google(資料等検索)、ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料)、スプレッドシート(データ整理)、ジャムボード(意見集約)、Forms(単元テスト・振り返り・アンケート)、地理情報システムGIS)、地域経済分析システム(RENAS)など		

教科	数学	科目	数学 I	単位数	3	学年	1 年
教科書(出版社)	新編 数学 I (数研出版)						
副教材(出版社)	REPEAT 数学 I +A						

1. 科目の目標

(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化した後、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを数学的に判断し、得られた知識や技術をもとに、数学的論拠に基づき他者の課題解決に役立てることができる	4	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、探究心をもって自ら課題を発見し、他者と協働しながら数学的な視点で解決策を考え、考察することができる。
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な数学的技法を学び、それらを自らの知識や技術とし、自身の課題解決に役立てることが出来る	3	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、他者と協働しながら数学的な解決策を提案したり、協議したりすることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報を利用することができる	2	世の中の事象に関心をもち、与えられた課題に積極的に取り組むことができる。
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	周囲と協力して、与えられた課題の解決に向けて努力することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1章 数と式 第2章 集合と命題	(1)文字式の計算と展開・因数分解 (2)実数の考え方 (3)集合の考え方と特徴 (4)命題の真偽及び必要条件と十分条件
2学期	第3章 2次関数 第4章 三角比	(1)平方完成と2次関数のグラフ (2)2次関数の最大・最小 (3)2次方程式と2次不等式 (4)三角比の表し方 (5)三角比の相互関係
3学期	第4章 三角比 第5章 データの分析	(1)正弦定理と余弦定理 (2)三角形の面積の求め方 (3)図形の測量 (4)データの代表値 (5)データの相関

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・授業中の課題への取り組み状況	・単元テスト ・定期考査 ・ペアワーク、グループワークの活動状況 ・発表やプレゼンテーション	・課題レポートへの取組状況 ・週末課題の提出 ・スタディサプリへの取組状況 ・意欲的に課題解決に向かう態度
学習方法	世の中の多くの事象の考察に数学は欠かせません。それは単に計算ができた、問題の解き方を知っていたということではありません。数学的な思考で多くの事象を考察したり、課題解決に向けて試行錯誤しながらの思考を積み重ねることで、事象を考察し、世の中の課題解決に繋げることができます。たくさん疑問を持ち、たくさん考え、そして課題解決を通して思考力を育み、数学を「数楽」にしましょう！数学 I は高校数学の学習や他科目との繋がり基礎となる科目です。		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スプレッドシート(データ整理、分析など)、ジャムボード(意見交換)、Forms(振り返り、アンケート)、電子黒板		

教科	数学	科目	数学A	単位数	2	学年	1 年
教科書(出版社)	新編 数学A(数研出版)						
副教材(出版社)	REPEAT 数学 I +A						

1. 科目の目標

<p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを数学的に判断し、得られた知識や技術をもとに、数学的論拠に基づき他者の課題解決に役立てることができる	4	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、探究心をもって自ら課題を発見し、他者と協働しながら数学的な視点で解決策を考え、考察することができる。
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な数学的技法を学び、それらを自らの知識や技術とし、自身の課題解決に役立てることが出来る	3	世界や地域の持つ課題や世の中の事象に関心をもち、他者と協働しながら数学的な解決策を提案したり、協議したりすることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報を利用することができる	2	世の中の事象に関心をもち、与えられた課題に積極的に取り組むことができる。
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	周囲と協力して、与えられた課題の解決に向けて努力することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	第1章 場合の数と確率	(1) 樹形図、順列、組み合わせ (2) 確率の基本性質 (3) 独立な試行と反復試行 (4) 期待値
2学期	第2章 図形の性質	(1) 辺の長さを求める (2) チェバの定理とメネラウスの定理 (3) 円と直線
3学期	第3章 数学と人間の活動	(1) 倍数と約数 (2) ユークリッドの互除法 (3) 1次不定方程式

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 定期考査 授業中の課題への取り組み状況 	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト 定期考査 ペアワーク、グループワークの活動状況 発表やプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 課題レポートへの取組状況 週末課題の提出 スタディサプリへの取組状況 意欲的に課題解決に向かう態度
学習方法	確率は世の中に溢れており、確率の考え方を身に付けることは、人生でより良い選択をしていく上でとても重要です。図形の性質では、中学校で学んだ角度や辺の長さを求める問題を基に様々な定理を学び、やがては測量などへの応用も学びます。経験値がものをいう科目でもありますので、たくさん問題を解いて、様々な数学的なものの見方を身に付けてください。		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スプレッドシート(データ整理、分析など)、Forms(振り返り、アンケート)、電子黒板		

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	学年	1 年
教科書(出版社)	科学と人間生活(東京書籍)						
副教材(出版社)	ニューサポート科学と人間生活(東京書籍)						

1. 科目の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験に関する技能を身に付けるようにする。

(2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。

(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、科学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができ、習得した知識を日常生活に活かすことができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、科学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができ、新たな知識を習得することができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、科学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	互いの立場を尊重して、科学的な事象に関する疑問や社会課題の解決に向けて話し合うことができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	1編 生命の科学	1章 微生物とその利用 2章 ヒトの生命現象
2学期	2編 物質の科学 3編 光や熱の性質	1章 材料とその再利用 2章 衣料と食品 1章 光の性質とその利用 2章 熱の性質とその利用
3学期	4編 宇宙や地球の科学	1章 太陽と地球 2章 自然景観と自然災害

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・単元テスト ・定期考査 ・実験、観察での活動状況 など	・単元テスト ・定期考査 ・ペアワーク、グループワークの活動状況 ・実験、観察での活動状況 など	・課題レポートへの取組状況 ・振り返りレポート ・Web Check Testへの取組状況 ・自己評価とその後の学習の調整状況 など
学習方法	現在、環境問題やエネルギー問題といった地球規模での課題が増す中、人間が自然と調和しながら持続可能な社会を構築することが強く求められています。その一端を担うため、身の回りの事物・現象から地球規模の環境までを視野に入れて、科学的な根拠に基づいて多面的に捉え、総合的に判断できる力を身に付けていきましょう。科学の原理や法則が科学技術として日常生活や社会の中でどのように利用され、結び付いているかを学ぶことで、科学を学ぶ意義や有用性を実感し、高校生活だけでなく、生涯にわたって科学に興味・関心をもち続けて欲しいと思います。 頑張ってもらいたいこと ①学習ファイルの管理 ②単元テストへの対策 ③学習の振り返り・調整Web Check Test ④定期考査 ⑤ペアワーク、グループワークでの積極的な意見交換		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スプレッドシート(実験データ整理など)、ジャムボード(意見交換)、Forms(振り返り、アンケート、Web Check Test)		

教科	保健体育	科目	体育	単位数	3	学年	1年
教科書(出版社)	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)						
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート改訂版・アクティブスポーツ【総合版】(大修館書店)						

1. 科目の目標

<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、他者と共に課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを実現できる
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、発表することができる	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることができる
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	互いの立場を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することができる
知識や情報を集めることができる	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことができる

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	・体作り運動 ・ダンス ・陸上競技(短距離、跳躍) ・球技 ・体育理論	・体ほぐしの運動、実生活の生かす運動の計画 ・ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 ・現代的なリズムのダンス ・1「スポーツの始まりと変遷」 ・2「文化としてのスポーツ」
2学期	・球技 ・陸上競技(長距離) ・体育理論	・ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 ・長距離走 ・3「オリンピックとパラリンピックの意義」 ・4「スポーツが経済に及ぼす効果」
3学期	・球技 ・ダンス ・体育理論	・ゴール型、ネット型、ベースボール型から選択 ・創作ダンス ・5「スポーツの高潔さとドーピング」 ・6「スポーツ環境」

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・単元毎のペーパーテスト ・実技テスト ・学習状況の観察及び記録	・学習状況の観察及び記録 ・ワークシートの記述 ・単元毎のペーパーテスト ・実技テスト	・学習状況の観察及び記録 ・ワークシートの記述 ・単元毎のペーパーテスト ・授業に取り組む姿勢の変移
学習方法	健康の保持増進などのために行われる運動や一定のルールや文化性をもつスポーツは、体を動かすという人間の本能的な欲求にこたえたとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす。さらには、体力の向上や精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものです。これらのことを理解して学習活動に主体的に取り組んでください。		
ICT活用	①電子黒板及びスクリーンの動画視聴 ②タブレットカメラ及びビデオ機能(振り返り・資料) ③スプレッドシート(データ整理) ④Forms(振り返り・アンケート)		

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	学年	1 年
教科書(出版社)	現代高等保健体育改訂版 (大修館書店)						
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート改訂版						

1. 科目の目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う</p>
--

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、他者と共に課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを実現できる
情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、発表することが出来る	3	考え方の違う相手から意見を引き出し、その異なる意見を尊重し、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	異なる意見を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することが出来る
知識や情報を集めることが出来る	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことが出来る

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	1. 現代社会と健康	1「健康の考え方と成り立ち」 ～ 11「薬物乱用と健康」
2学期	1. 現代社会と健康	12「精神疾患の特徴」 ～ 19「健康に関する環境づくり」
3学期	2. 安全な社会生活	1「事故の現状と発生要因」 ～ 6「心肺蘇生法」

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。</p> <p>学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 ノートの記述 ワークシートの記述 探究活動の内容 学習状況の観察 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記述 ワークシートの記述 学習状況の観察 小テストの結果
学習方法	保健は非常に魅力的な特性を備えています。その1つは、「健康・安全」がすべての人にとって、自己実現するプロセスを根底から支えているという事実です。「健康・安全」について、あらゆる角度から探求していきましょう。		
ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ①スライド(資料・まとめ) ②スプレッドシート(データ整理) ③Forms(小テスト・振り返り・アンケート) 		

教科	音楽	科目	音楽 I	単位数	2	学年	1 年
教科書(出版社)	MOUSA①(教育芸術社)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現を行うために必要な技能を身に付けるようにする。

(2)自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

(3)主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
ICT機器を用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、他者の課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを実現できる
ICT機器を用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、自身の課題解決に役立てることができる	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
ICT機器を用いて情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	○曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう ○曲の良さや美しさを探ろう ○ボディー・パーカッションやボイス・アンサンブル、CUPSに挑戦しよう	・日本語歌曲「校歌」「翼をください」 ・楽譜の読み書きノボディー・パーカッション ・外国語歌曲「O sole mio」「Caro mio ben」
2学期	○楽器を演奏しよう ○日本と世界の諸民族の音楽を味わおう ○オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう ○メロディをアレンジしよう	・ギター「日曜日よりの使者」 ・オペラ「カルメン」 ・鑑賞「世界の諸民族の音楽」 ・創作「星に願いを」「きらきら星」 ・日本歌曲「この道」「赤とんぼ」
3学期	○J-POPや歌謡曲の特徴を理解して歌おう ○作曲家の生涯と作品を辿ろう ○ミュージカル・ナンバーを歌おう	・ミュージカル「オペラ座の怪人」「キャッツ」 ・「クローズ・アップ・マエストロ」 ・音楽史 ・ポピュラー音楽(ジャズ・ロック)

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・実技テスト ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート課題 など	・実技テスト ・定期考査 ・ワークシート課題 ・鑑賞レポート など	・実技テスト ・課題ワークシートの記述 ・自己評価・振り返り ・授業内の活動への取り組み など
学習方法	芸術は感性を磨き、人生をより豊かに美しく生きていくために大切なものです。音楽をはじめ幅広い文化や芸術に触れたり、感じ取り考えることを通して、理解を深め、感じたものや考えたことを表現しながら、音楽を楽しんで活動していきましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料、まとめ) Forms(小テスト・振り返り・アンケート)、YouTube(音楽鑑賞)、Chrome Music Lab(創作)		

教科	英語	科目	英語コミュニケーション I	単位数	4	学年	1 年
教科書(出版社)	VISTA English Communication I (三省堂)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

英語学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指す指導を通して、下記の(1)～(3)の資質・能力を育成する。

(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	多様性の尊重 — 多様性を理解・受け入れ、思いやることができる—
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめて他者の課題解決に役立てることができる。	4	英語を通して自己と他者に対する思いやりの気持ちを備え、多様な文化や価値観に触れ、それを尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR B2レベル)を身につけることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめ、自身の課題解決に役立てることができる。	3	英語を通して多様な文化や価値観をふまえ、自らの思いを大切に、それを尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力、表現力(いずれもCEFR B1レベル)を身につけることができる。
情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる。	2	英語を通して思いやりの気持ちを備え、それを尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR A2レベル)を身につけることができる。
相談しながら知識や情報を集めることができる。	1	英語を通して人の意見を尊重し行動するために必要なスピーキング力、リスニング力、ライティング力、リーディング力(いずれもCEFR A1レベル)を身につけることができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	<ul style="list-style-type: none"> ・Get Ready 1～4 ・Lesson 1 Colors of Spring ・Lesson 2 Dick Bruna ・Lesson 3 Interesting Sports 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の使い方・基礎の復習 ・春の色って、何色？・be動詞・一般動詞の現在形 ・ミッフィーの作者・be動詞・一般動詞の過去形 ・ちょっと変わったスポーツ・現在・過去進行形
2学期	<ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 4 Pictograms ・Lesson 5 We Are Part of Nature ・Lesson 6 Machu Picchu ・Lesson 8 Is There a Santa Clause? 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクトグラムの役割・助動詞・動名詞 ・動物写真家・岩合光昭・不定詞 ・世界遺産「マチュ・ピチュ」・現在完了形 ・サンタクロースについて・関係代名詞
3学期	<ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 7 Artificial Intelligence ・Lesson 9 Kids' Guernica ・Lesson 10 Ethical Fashion 	<ul style="list-style-type: none"> ・人とAIの共存・受け身 ・「ゲルニカ」の平和への祈り・分詞・関係副詞 ・エシカルについて・比較

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	単元テスト、定期考査、小テスト、など	単元テスト、定期考査、パフォーマンステスト、学習状況の観察など	パフォーマンステスト、学習状況の観察、課題など
学習方法	授業中は英語を「使う」ことを意識して学習しましょう。また、教科書で取り上げられた題材についての知識を幅広く収集し、様々なところに興味関心を持って学習を行ってください。授業以外でもICTを活用して英語に触れる時間を積極的に作りましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)、サイト(背景知識の収集)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート) スタディサプリ、ターゲット1200		

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2	学年	1年
教科書(出版社)	未来へつなぐ 家庭総合365(教育図書)						
副教材(出版社)	2024年度家庭科学習ノート(熊本県高等学校教育研究会家庭部会)						

1. 科目の目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	課題探究力 — 探究活動を通じて、課題探究力を高める —
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、他者の課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを他者へ伝えるために、適切かつ効果的な情報デザインを考えることができる
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、自身の課題解決に役立てることが出来る	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
ICT機器や本などを用いて情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	互いの立場を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することが出来る
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことが出来る

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	A編 第1章 生涯の生活設計 A編 第2章 青年期の自立と家族・家庭 A編 第4章 高齢期の生活と福祉 A編 第5章 共生生活と福祉	①子どもはどう生まれ育つ？ ②子どもとどうかかわろう？ ③これからの子育てとは？
2学期	A編 第5章 共生生活と福祉 B編 第1章 食生活と健康	①衣服の役割ってなんだろう ②衣服はどうやってつくられている ③自分で衣服をつくってみよう ④衣服の計画・管理を知ろう
3学期	B編 第1章 食生活と健康 A編 第3章 子どもの生活と保育	①何をどうやって買う ②かしこい消費者になろう

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・実技 など	・定期考査 ・単元テスト ・小テスト ・ワークシート ・レポート など	・学習状況の観察 ・課題等の内容 ・レポート など
学習方法	私たちは、家族や友達・地域の人とのかかわりや、衣食住などを通して、社会と深くつながっています。毎日の生活を振り返り、問題点を見つけて改善することで生活を豊かにし、自立した生活を送るための準備をしましょう。		
ICT活用	ドキュメント(レポート)、スライド(発表資料)、ジャムボード(意見集約・まとめ)Forms(小テスト・振り返り・アンケート)、classroom(課題提出)、meet(発表)		

教科	情報	科目	情報 I	単位数	2	学年	1 年
教科書(出版社)	高等学校 情報 I (数研出版)						
副教材(出版社)	高等学校 情報 I サポートノート(数研出版)						

1. 科目の目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 効果的なコミュニケーションの実現コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	他者との協働 — 他者と協働し、解決に向け合意形成して行動できる—
ICT機器を用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、他者の課題解決に役立てることができる	4	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図り、さらにそれを他者へ伝えるために、適切かつ効果的な情報デザインを考えることができる
ICT機器を用いて情報の正確さを判断したり、情報を活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識とし、自身の課題解決に役立てることができる	3	立場や考え方の違う相手から意見を引き出し、互いの立場を尊重して、課題解決に向けて合意形成を図ることが出来る
ICT機器を用いて情報の正確さを判断して自らの知識とし、得た知識や情報をまとめることができる	2	互いの立場を尊重し、ともに課題解決に向けて活動することが出来る
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	話し合いの場で、自分の意見を持つことが出来る

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	1編 情報社会の問題解決 2編 コミュニケーションと情報デザイン	1章 情報とメディア 2章 情報社会における法とセキュリティ 1章 情報のデジタル表現
2学期	2編 コミュニケーションと情報デザイン 3編 コンピュータとプログラミング	2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 3章 情報デザイン 4章 プレゼンテーション 1章 コンピュータのしくみ
3学期	3編 コンピュータとプログラミング 4編 情報通信ネットワークとデータの活用	2章 プログラミング 1章 ネットワークのしくみ 2章 データベース 3章 データの活用

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	単元テスト、定期考査、小テスト、など	定期考査、レポートの記述、探究活動の内容、学習状況の観察など	学習状況の観察、課題等の記述、自己評価、スタディサプリの取組状況など
学習方法	情報社会と呼ばれる昨今で、これから生きていかなければなりません。今よりもっと技術が発展し、想像もつかない世の中になっていくかもしれません。情報という目には見えないモノを扱うからこそ、注意すべきことがたくさんあります。なんとなくで扱ってきた情報機器や他者への情報の伝え方も正しい方法を学び、より人生を楽しめるものにしていきましょう！		
ICT活用	ドキュメント(レポート・ワークシート)、スライド(発表資料・まとめ)、スプレッドシート(データ整理)Miro(意見集約・まとめ)、Forms(小テスト・振り返り・アンケート)		

教科	美術	科目	素描	単位数	2	学年	1年
教科書(出版社)	イチバン親切なデッサンの教科書(新星出版社)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

<p>素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3)造形表現を追求する態度を養う。</p>

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	【マンガ学科】漫画制作等を通じた表現力 — 漫画制作等を通じて、表現力を鍛える —
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とし、作品制作に役立てることができる	4	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、作品の世界観を多くの人に伝えることができる。
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とすることが出来る	3	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、見る人に作品の世界観が伝わるように表現することができる。
知識や情報の正確さを判断して自らまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	素描基礎講座 鉛筆デッサン クロッキー	静物デッサン 手のデッサン 人物クロッキー、デフォルメ表現
2学期	鉛筆デッサン クロッキー	顔のパーツデッサン 自画像デッサン 人物クロッキー、デフォルメ表現
3学期	鉛筆デッサン クロッキー	静物デッサン 人物クロッキー、デフォルメ表現

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	提出作品	提出作品 ワークシート	提出作品 制作の様子
学習方法	作品は時間かけて粘り強く取り組みばすばらしい作品になります。時間を確保して作品制作に取り組みましょう。作品の提出期限は厳守しましょう。		
ICT活用	スライド(発表資料・まとめ)、Forms(振り返り・アンケート)		

教科	美術	科目	構成	単位数	2	学年	1 年
教科書(出版社)	つくる・見る・学ぶ 美術のきほん(秀学社)						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

構成の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 造形的な創造活動に関わる諸要素について理解を深めるとともに、基礎となる技能を身に付けるようにする。
- (2) 造形的な表現効果を高めるための基礎となる思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 造形感覚を高めようとする態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	【マンガ学科】漫画制作等を通じた表現力 — 漫画制作等を通じて、表現力を鍛える —
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とし、作品制作に役立てることができる	4	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、作品の世界観を多くの人に伝えることができる。
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とすることが出来る	3	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、見る人に作品の世界観が伝わるように表現することができる。
知識や情報の正確さを判断して自らまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	基礎講座	マンガ模写 色彩、透視図法、水彩技法基礎 ドローイング 等
2学期	イメージボード制作 イラストレーション制作	既存の小説からイメージボードを制作 ポスターセッションによるイラスト制作
3学期	立体制作	紙立体でコスプレアイテムを制作

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。	提出作品 小テスト	提出作品 ワークシート	提出作品 制作の様子
	学習方法 作品は時間かけて粘り強く取り組めば素晴らしい作品になります。時間を確保して作品制作に取り組みましょう。作品の提出期限は厳守しましょう。		
ICT活用	スライド(発表資料・まとめ)、Forms(振り返り・アンケート)		

教科	学校設定科目	科目	マンガ制作	単位数	2	学年	1 年
教科書(出版社)	高森高校マンガ学科テキスト						
副教材(出版社)	なし						

1. 科目の目標

マンガ制作の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的なマンガに関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) マンガ制作の意義や基礎的な理論について理解を深めることができるようにする。
- (2) マンガ制作に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) マンガ表現を追求する態度を養う。

科目のルーブリック

知識や情報等の活用 — 信頼できる知識や情報等を収集し、有効に活用できる —	レベル	【マンガ学科】漫画制作等を通じた表現力 — 漫画制作等を通じて、表現力を鍛える —
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とし、作品制作に役立てることができる	4	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、作品の世界観を多くの人に伝えることができる。
知識や情報の正確さを判断したり、活用するために必要な収集・整理・分析の方法を学び、それらを自らの知識や技術とすることが出来る	3	世界や地域の事象に興味を持ち、自ら考え、思いを整理し、見る人に作品の世界観が伝わるように表現することができる。
知識や情報の正確さを判断して自らまとめることができる	2	人と相談しながら自分の考えや思いを整理し、それらを表現して伝えることができる。
相談しながら知識や情報を集めることが出来る	1	テーマの提供や指導を受け、自分の考えを整理し、表現することができる。

実施予定時期	単元名	学習内容
1学期	マンガ制作 マンガ基礎理論	課題マンガ模写 4コマ漫画制作 ストーリー発想について
2学期	マンガ制作 マンガ基礎理論	キャラクターデザイン表制作 プロット制作 キャラクター発想、感情表現について
3学期	マンガ制作 マンガ基礎理論	ネーム制作

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	提出作品	提出作品 ワークシート	提出作品 制作の様子
学習方法	作品は時間かけて粘り強く取り組めば素晴らしい作品になります。時間を確保して作品制作に取り組みましょう。作品の提出期限は厳守しましょう。		
ICT活用	スライド(発表資料・まとめ)、Forms(振り返り・アンケート)		

観点に基づいて学期ごとに評価し、学年末に5段階の評定に換算します。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。